

山武市立図書館 規模適正化計画 (案)

令和7年9月
山武市教育委員会

目次

山武市立図書館規模適正化計画

1. 計画策定の趣旨	1
2. 近隣市等との比較	2
(1) 合併市町との比較	2
(2) 近隣市との比較	3
(3) 維持管理経費の比較	4
3. 山武市図書館の適正規模	5
(1) 費用面の適正規模	5
(2) 施設面の適正規模	6
4. 集約先の検討	8
(1) 山武市の図書館の状況	8
(2) 図書館の利用状況	9
(3) 集約方針	12
(4) 集約の方法	12
(5) 集約化ロードマップ	12
5. 図書館機能の維持	13
(1) 図書コーナー	13
(2) 移動図書館	13
(3) 電子図書館	15
資料編	16
(1) 費用関係推移	17
(2) 来館者数の推移	18
(3) 貸出冊数推移	18
(4) 山武市の人口推計	19
(5) 年齢別人口構成	20
(6) 地域別人口の推計	21

1. 計画策定の趣旨

平成18年3月の合併以来、山武市では、合併効果の発揮に向けた取り組みを推進してきました。

令和5年3月に策定した「第3次山武市総合計画」では、市の経営資源を効果的に配分するために「重点分野」を設定し、市の抱える問題に対して事業を展開しています。

「第3次山武市総合計画」の基本構想では、「市民が暮らしやすく住み続けられる環境を確保するとともに、市外の方が魅力に思い、訪れ、住まう価値を創造していくことが必要です。同時に、市民の安心安全を確保しながら、人口減少に対応した行政運営も求められています。そのため、将来に渡って持続可能で魅力あるまちづくりを進めます。」と定めています。

そして、持続可能なまちづくりを進めるため、「重点分野」として「公共資産の適正化とファシリティマネジメントの推進」に取り組むこととしています。

山武市の図書館は、旧成東町、旧山武町、旧松尾町の3町に整備されており、合併以来すべての図書館を維持してきました。

また、図書館は、年齢や経済的状況等を問わず、市民の身近にあって、図書やその他の資料を収集、整理、保存し、その提供を通じて市民の個人的な学習を支援するという役割をもつ生涯学習施設であり、情報提供サービスを通じ地域が抱える様々な課題解決の支援なども求められています。

しかしながら、少子高齢化により、山武市の人口減少は進行しています。令和4年度には旧松尾町地域が過疎地域に指定されました。今後、他の地域についても過疎地域に指定される可能性があります。

そうした状況を踏まえ、令和元年5月に山武市社会教育委員に対し、『社会教育施設のあり方について』を諮問し、その答申の中で、図書館については「将来的には、情報取得に便利な図書館となるよう情報資産の集中・一元化を図るため、施設の統合・拡充を進める方向で検討して良いと考えます。」とされています。

本計画はファシリティマネジメントの一環として、経営戦略的な視点において、図書館の機能を十全に維持しながら、山武市としての適正規模での運営を目指すための具体的な方向性を示すことを目的として、「山武市図書館規模適正化計画」を策定するものです。

2. 近隣市町との比較

(1) 合併市町との比較

① 図書館数・延床面積等

自治体名	図書館数 (うち分館数)	延床面積 (㎡) ※	図書室・図書 コーナー数	備考
山武市	3	2,629	1	
成田市	2(1)	5,179	14	
匝瑳市	2(1)	3,937	0	のさか図書館は分館扱
旭市	1	313	3	R3.7.10 県東部図書館と統合
香取市	2	2,448	2	
いすみ市	0	0	1	
南房総市	1	594	5	
横芝光町	2(1)	3,030	0	横芝分館

※延床面積については、各団体とも分館、図書室等を除く。

② 運営状況

図書館名	蔵書数(冊)	来館者数 (人)	市民1人 当たり 来館数(回)	個人貸出 冊数(冊)	市民1人 当たり 貸出数(冊)
山武市(3館合計)	298,268	105,507	2.29	213,906	4.64
山武市成東図書館	107,911	30,517	0.66	106,092	2.30
山武市さんぶの森図書館	98,235	39,732	0.86	56,480	1.23
山武市松尾図書館	92,122	35,258	0.77	51,334	1.11
成田市立図書館	704,658	409,521	3.07	985,292	7.39
匝瑳市立八日市場図書館	287,704	78,790	2.39	178,614	5.42
旭市図書館	101,807	—	—	103,836	1.70
香取市(2館合計)	169,490	—	—	198,810	2.92
香取市立佐原中央図書館	116,917	—	—	14,717	1.68
香取市立小見川図書館	52,573	—	—	84,093	1.24
南房総市図書館	93,298	29,369	0.88	70,443	2.12
横芝光町立図書館	327,655	94,850	4.53	241,010	11.51

※匝瑳市立八日市場図書館にはのさか図書館を含む。

※①②出典：千葉県公共図書館協会「千葉県の図書館2024」(令和6年度版)

近隣の合併市のうち、複数の図書館を運営しているのは山武市と香取市の2市だけであり、他市では、1館の図書館と分館もしくは図書室、図書コーナーを公民館等に設けるといった運営がされています。

山武市は同規模の図書館を3館運営していますが、香取市は佐原中央図書館に蔵書を集中する運用を行っています。

(2) 近隣市との比較

① 図書館数

自治体名	図書館数	延床面積 (㎡) ※	図書室・図書 コーナー数	備考
山武市	3	2,629	1	
東金市	1	1,307	0	
大網白里市	0	0	3	大網白里市図書室、中部分室、白里分室
八街市	1	2,072	0	
富里市	1	3,787	0	

② 運営状況

図書館名	蔵書数(冊)	来館者数 (人)	市民1人当 り来館数(回)	個人貸出 冊数(冊)	市民1人当 り貸出数(冊)
山武市(3館合計)	298,268	105,507	2.29	213,906	4.64
山武市成東図書館	107,911	30,517	0.66	106,092	2.30
山武市さんぶの森図書館	98,235	39,732	0.86	56,480	1.23
山武市松尾図書館	92,122	35,258	0.77	51,334	1.11
東金市立東金図書館	151,199	40,768	0.72	113,780	2.00
八街市立図書館	315,140	165,465	2.52	221,054	3.37
富里市立図書館	202,626	193,545	3.92	152,908	3.09

※①②出典：千葉県公共図書館協会「千葉県の図書館2024」(令和6年度版)

※山武市臨時休館：令和5年10月19日から11月2日(3館とも)、令和6年2月5日から4月1日(さんぶの森図書館)

近隣市は、合併市ではないため、図書館は各市1施設となっています。ただし大網白里市は、図書館がなく、大網白里市図書室と2つの分室となっています。

東金市は6月～12月までの半年間、工事のため、閉館となっていたことから来館者数が減少しています。

八街市、富里市の図書館では、年間で市民1人あたりに換算すると2回ないし3回程度の利用がありますが、山武市では3館とも年間1回未満の利用となっています。

(3) 維持管理経費の比較

令和5年度決算額ベース

(単位：円)

図書館名	維持管理 経費	職員人件費	会計年度任用 職員人件費	経費合計	市民1人 当たり経費 ※4
山武市(3館合計)※1	77,275,349	58,133,959	53,363,029	188,772,337	3,931
山武市成東図書館	5,427,681				
山武市さんぶの森図書館	3,328,896				
山武市松尾図書館	68,518,772				
匝瑳市立八日市場図書館	53,233,302	18,242,230	27,102,401	98,577,933	2,934
旭市図書館	19,491,842	25,883,003	20,431,867	65,806,712	1,056
香取市2館合計	63,635,137	42,194,700	5,268,220	111,098,057	1,582
南房総市図書館※2	17,495,907	12,637,184	9,479,301	39,612,392	1,147
横芝光町立図書館	99,052,270	39,353,577	6,622,983	145,028,830	6,516
東金市立東金図書館	57,729,554	37,568,472	17,018,475	112,316,501	1,985
八街市立図書館	56,300,079	96,204,885	11,759,825	164,264,789	2,460
富里市立図書館	55,618,889	52,647,415	11,722,891	119,989,195	2,417

※1 山武市は図書館システム導入費(繰越明許)47,567,850円を含む。

※2 経費合計を住民基本台帳による人口(令和5年度末時点)で割った金額。

山武市の図書館は市の中で、市民1人当たりの経費が最も高い状況であることがわかります。特に人件費、その中でも会計年度任用職員にかかる経費が大きくなっています。

3館分の運営を続けるために、それぞれの図書館で会計年度任用職員が採用されていることが原因となっているものと考えられます。

3. 山武市図書館の適正規模

(1) 費用面の適正規模

市立図書館の施設数など、適正規模を直接規定している法令はありません。

しかしながら、地方公共団体の運営において重要な役割を持つ地方交付税法第2条第6号において「市町村ごとに、標準的条件を備えた地方団体が合理的、かつ、妥当な水準において地方行政を行う場合又は標準的な施設を維持する場合に要する経費を基準」として単位費用という数値を設定しています。

これは国が想定する「標準団体」において分野ごとにかかる費用を自治体の規模に応じて割合で変動させるものです。

基準	標準団体	山武市	割合
人口（人）	100,000 人	48,444 人	0.484
面積（km ² ）	210 km ²	146.77 km ²	0.699
世帯数（世帯）	44,000 世帯	19,403 世帯	0.441
道路延長（km）	500km	1,281 km	2.562

※人口、世帯数は国勢調査を基準としています。直近の国勢調査は令和2年実施となります。

地方交付税の算定においては、図書館費は「人口」が基準となっており、標準団体において人口100,000人あたり1館、維持管理経費（人件費含む）は86,507千円とされています。

山武市は人口が48,444人なので、図書館数は0.484館相当となります。

また、下の表は、標準団体の維持管理経費の費用と、標準団体の維持管理経費に山武市の人口水準の0.484倍したもの（以下、「山武市（標準）」といいます。）であり、標準的な維持管理経費は41,869千円となります。

設定項目	標準団体※		山武市（標準）	
給与費（職員数）	46,400千円	8人	22,457千円	3.9人
報酬（委員数）	332千円	12人	161千円	5.8人
需用費等	33,138千円		16,039千円	
委託料	6,637千円		3,212千円	
合計	86,507千円		41,869千円	

※出典 令和6年度 地方交付税制度解説（単位費用篇） 一般財団法人 地方財務協会

現在かかっている費用（令和5年度決算額）と国が想定する標準的な費用の差は以下のとおりです。

設定項目	山武市（R5 決算額）	山武市（標準）	差額
給与費（職員数）	111,497 千円(33 人※)	22,457 千円(3.9 人)	89,040 千円
報酬（委員数）	38 千円（8 人）	161 千円(5.8 人)	△123 千円
需用費等	48,066 千円 (18,505 千円)	16,039 千円	32,027 千円 (2,466 千円)
委託料	29,171 千円 (11,164 千円)	3,212 千円	25,959 千円 (7,952 千円)
合計	188,772 千円 (141,204 千円)	41,869 千円	146,903 千円 (99,335 千円)

※ 正規職員 9 人、会計年度任用職員 24 人（パートタイム含む）の合計。

※ 金額欄の（ ）内は、図書館システム導入費（繰越明許）47,568 千円を除いた額。

このように当市の図書館にかかる費用は国の基準よりも非常に多くなっていることがわかります。

（2）施設面の適正規模

また、他市と比較しても山武市の図書館は数、経費共に多い傾向にあります。

そして、山武市の人口は 2035 年には 38,000 人程度になることが予測されており、その場合の適正規模は次ページの表のとおりです。なお、2050 年にはさらに人口減少が進み 27,000 人程度となることが予測されています。

費用面においては、国の基準が変わらなかった場合、市単独で図書館を維持することが適切なのかという観点もありますが、図書館の維持は市として必要であると考えます。

そこで、山武市立図書館は 1 館体制を適正規模として設定し、重複している経費の削減と、人件費の縮減を実施し、持続可能な運営を目指します。

将来的には、人件費も含め、国の想定する基準に準じた維持管理経費となるように、採用等の調整を行います。

人口段階毎の適正規模

人口段階	～2万人	～3万人	～4万人	～5万人
図書館数	1.2	1.4	1.6	1.7
図書館占有延床面積(m ²)	1,395.2	1,850.1	2,433.5	3,373.8
自動車図書館数(台)	0.0	0.3	0.6	0.8
蔵書数(冊)	123,661.7	153,589.5	220,523.4	240,459.6
うち開架冊数(冊)	90,406.6	99,644.1	139,660.2	161,385.8

※出典 図書館の設置及び運営上の望ましい基準(平成24年文部科学省告示第172号)について(平成24年12月 文部科学省生涯学習政策局社会教育課)における目標基準例。

貸出密度(住民1人当たりの貸出資料数)上位10%の市町村の平均値を算出したものであり、この数値を参考に各図書館において目標値を定め、自己評価に活用することにより図書館運営の一層の発展に資することが望まれるとされています。

(参考) 成東図書館へ集約した場合の不足収容能力の試算

人口段階	～2万人	～3万人	～4万人	～5万人
蔵書数(冊)	120,000	150,000	220,000	240,000
除籍数(冊)	176,863	146,863	76,863	56,863
不足収容能力(冊)	44,000	74,000	144,000	164,000

※不足収容能力は、県報告数値(収容能力)を基準としています。

4. 集約先の検討

(1) 山武市の図書館の状況

山武市には、図書館法に基づく図書館が3つ存在しています。それぞれの施設の稼働状況等は以下のとおりです。

	成東図書館	さんぶの森 図書館	松尾図書館	合計
開館年月	平成 8 年 5 月	平成 10 年 5 月	平成 16 年 10 月	—
延床面積	560 m ²	1,028 m ²	1,041 m ²	2,629 m ²
蔵書能力	76,000 冊	75,000 冊	60,000 冊	—
蔵書数	107,911 冊	98,235 冊	92,122 冊	298,268 冊
開館日数	273 日	231 日	274 日	—
登録者数	8,961 人	6,770 人	7,638 人	23,369 人
来館者数	30,517 人	39,732 人	35,258 人	105,507 人
貸出冊数	142,006 冊	75,550 冊	66,608 冊	284,164 冊
相互協力貸出冊数	1,157 冊	1,004 冊	529 冊	2,690 冊

※出典 令和5年度 教育委員会事務報告書（延床面積は、公共施設マネジメントシステムの数値を使用）

※来館者数、貸出冊数には、学校等の団体利用を含む。

山武市の各図書館では特色ある運営を実施しており、成東図書館は医療健康情報関係の図書購入を行い、さんぶの森図書館はビジネス書などの成人向け書籍を重点的に用意し、松尾図書館は郷土資料を多くそろえています。

建物は、成東図書館が平成8年の建築で最も古く、さんぶの森図書館が平成10年、松尾図書館が平成16年の建築となっています。

もっとも古い成東図書館が令和5年現在で築27年が経過しているものの、構造は鉄筋コンクリート造（RC）であり、標準使用年数は60年と設定されていますので、30年以上の利用が可能となります。

なお、いずれの図書館も単独の建物ではなく、成東図書館は成東文化会館のぎくプラザ、さんぶの森図書館はさんぶの森文化ホール、松尾図書館は松尾 IT 保健センターの各施設の一部を使用しています。

(2) 図書館の利用状況

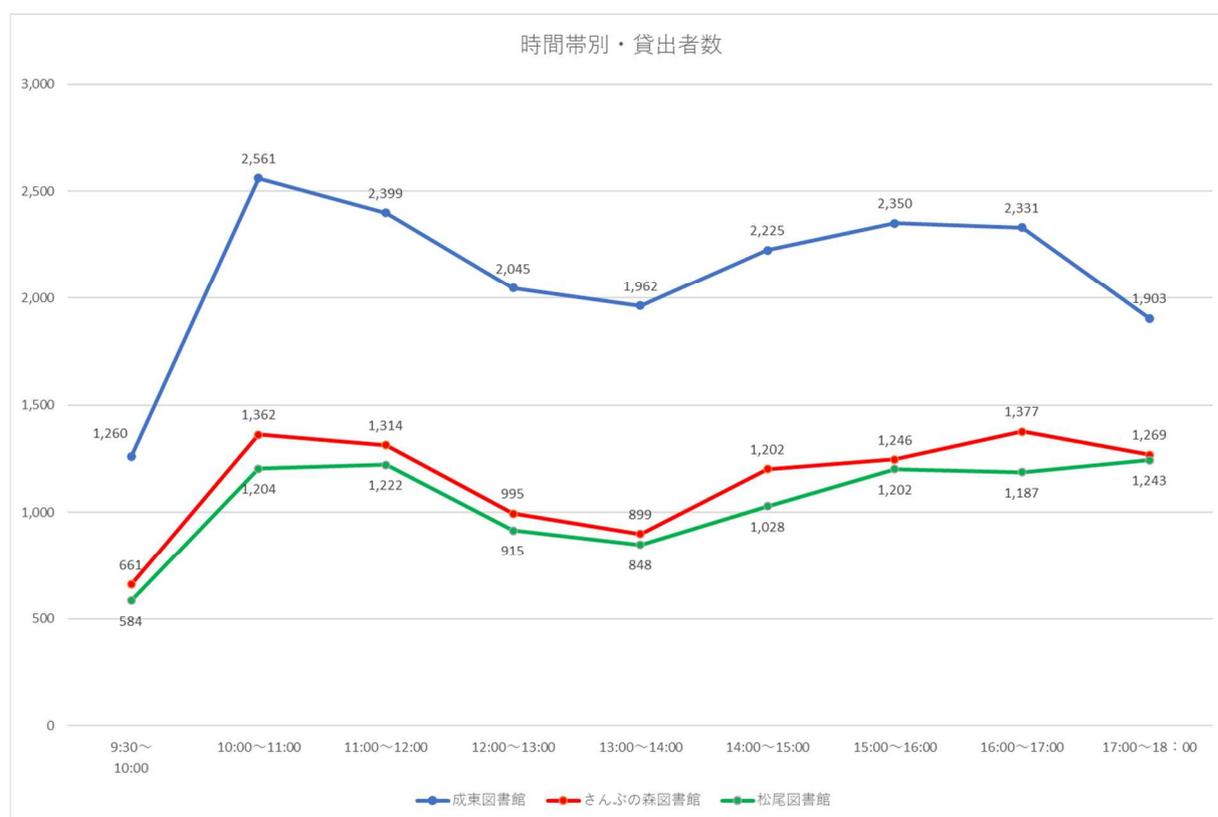
学校等の団体利用を除く、個人での利用状況等は以下のとおりです。

① 時間帯別・貸出者数（令和5年度）

（単位：人）

時間帯	成東図書館	さんぶの森 図書館	松尾図書館	合計
9:30～10:00	1,260	661	584	2,505
10:00～11:00	2,561	1,362	1,204	5,127
11:00～12:00	2,399	1,314	1,222	4,935
12:00～13:00	2,045	995	915	3,955
13:00～14:00	1,962	899	848	3,709
14:00～15:00	2,225	1,202	1,028	4,455
15:00～16:00	2,350	1,246	1,202	4,798
16:00～17:00	2,331	1,377	1,187	4,895
17:00～18:00	1,903	1,269	1,243	4,415
合計	19,036	10,325	9,433	38,794

※学校等の団体利用を除く。



② 時間帯別・貸出冊数（令和5年度）

（単位：冊）

時間帯	成東図書館	さんぶの森 図書館	松尾図書館	合計
9:30～10:00	5,230	3,378	2,448	11,056
10:00～11:00	14,038	6,282	5,755	26,075
11:00～12:00	12,632	6,457	6,314	25,403
12:00～13:00	10,453	5,132	4,706	20,291
13:00～14:00	9,937	4,043	3,981	17,961
14:00～15:00	11,885	5,469	4,979	22,333
15:00～16:00	12,617	6,329	6,063	25,009
16:00～17:00	12,435	6,921	5,940	25,296
17:00～18:00	10,368	6,451	6,189	23,008
合計	99,595	50,462	46,375	196,432

※貸出冊数は、学校等の団体利用及び「延長」による再貸出しを除く。



貸出者数、貸出冊数の約半数は、成東図書館となります。
時間帯による来館、貸出状況には、大きな偏りは見られません。

③ 曜日別・貸出冊数（令和5年度）

（単位：冊）

曜日	月	火	水	木	金	土	日	合計
貸出冊数	4,485	20,625	28,713	21,478	26,988	45,102	49,041	196,432

④年齢別・貸出者、貸出冊数（令和5年度）

年齢	貸出者数	貸出冊数	1人あたり 貸出冊数
0歳～6歳	585人	3,969冊	6.8冊
7歳～12歳	3,247人	19,709冊	6.1冊
13歳～15歳	914人	5,205冊	5.7冊
16歳～18歳	364人	1,143冊	3.1冊
19歳～22歳	284人	1,127冊	4.0冊
23歳～30歳	857人	4,828冊	5.6冊
31歳～40歳	3,328人	20,809冊	6.3冊
41歳～50歳	6,510人	40,049冊	6.2冊
51歳～60歳	5,542人	27,527冊	5.0冊
61歳～64歳	2,934人	13,239冊	4.5冊
65歳～74歳	8,716人	35,889冊	4.1冊
75歳～	5,513人	22,938冊	4.2冊
合計	38,794人	196,432冊	5.1冊

※貸出冊数は、学校等の団体利用及び「延長」による再貸出しを除く。

(3) 集約方針

図書館の整備は、すべての市民へ適切な図書館サービスをつなげるための仕組みづくりととらえ、「人」と「資料」を集約することとします。

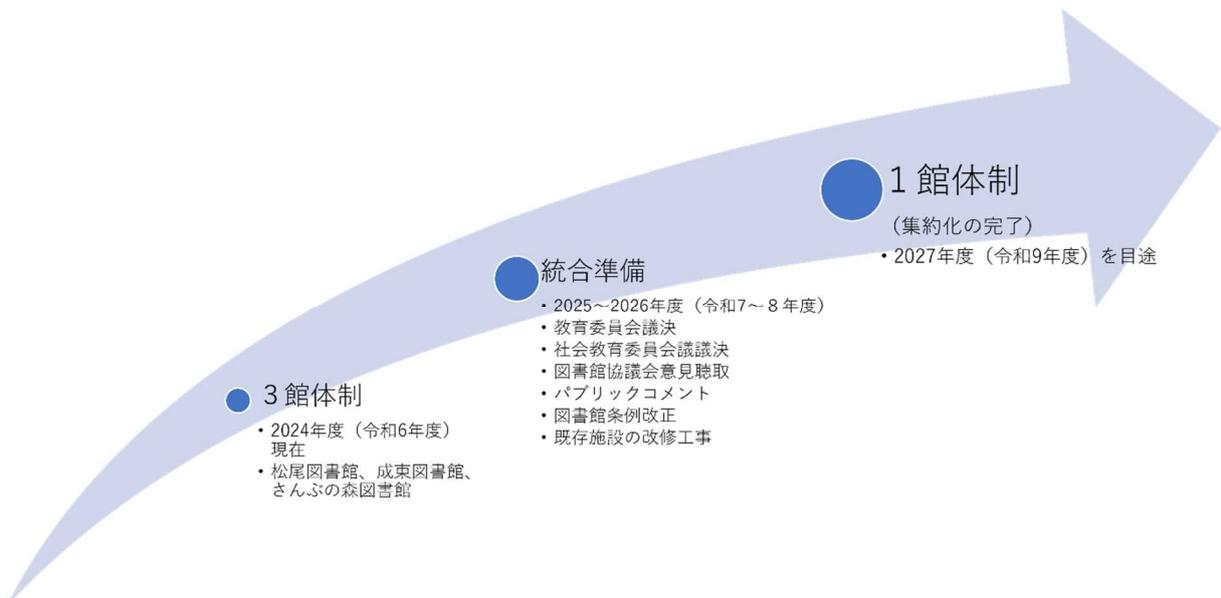
また、集約化に際しては、貸出者数、貸出冊数と併せて、地域別人口推計や市の財政状況も考慮し、新規の施設建設は行わず、既存の建物を改修して活用することとします。

(4) 集約の方法

集約の方法については、収蔵能力の不足のため施設改修等が必要となりますが、2027年度を目途として、貸出冊数が最も多い成東図書館に集約していくこととし、併せて、今後、行財政改革等により施設のあり方が検討される他の社会教育施設や学校施設等も視野に入れ検討することとします。

また、集約後の跡地利用についても同時に検討することとします。

(5) 集約化ロードマップ



5. 図書館機能の維持

図書館は、その情報提供サービスを通して、地域における課題解決のきっかけや、新たな知見をもたらすことから、集約後もその機能を一定程度維持していく必要があります。そこで、集約に際し、以下のようなサービスの導入を検討します。

(1) 図書コーナー

移動手段のない方に配慮し、図書館に行かずとも図書の貸し借りができるよう、また、図書館から遠い地域であっても、子どもたちが本と出会う場所、人と人との交流が持てる居場所として、図書コーナーを設置し、図書館のサービスポイントとすることを検討します。

現在導入している図書の予約システムから事前に予約した図書の貸出、返却受付を行うとともに、利用状況に合わせてスペース内の図書の変更などを実施します。

【参考】 蓮沼交流センターの例



(2) 移動図書館

移動図書館とは、マイクロバスやトラックなど大型自動車の内部を改装し、書架風の棚を設置して図書館資料を積み、移動しながら貸し出しを行なうスタイルの図書館サービスです。

県内では次ページのとおり、近隣市では東金市や八街市が導入しています。

導入市では、大型車両に約 1,500 冊～3,000 冊を積み、公民館等の社会教育施設や学校をステーションとし月に 1～2 回程度の巡回を行っています。

本市においても、図書館から遠い地域にお住まいの方や、高齢者等で移動手段がなく図書館に来ることが難しい方に図書館サービスを利用してもらえるよう、移動図書館の導入について検討します。

【参考】八街市の例

令和7年度 **ひばり号ステーション案内**



八街市立図書館

移動図書館車ひばり号が約3,000冊の本を載せて市内を巡回しています。どうぞ、最寄りのステーションをご利用ください。

- 貸出期間は次回の巡回日までです。
- 貸出冊数の制限はありません。
- 読みたい本が見つからないときはリクエストしてください。
- 各ステーションの巡回日時は下のカレンダーを参照してください。
(各ステーションの色とカレンダーの色が対応して、巡回日を表しています)
- 交進小学校・朝陽小学校・笹引小学校・川上小学校・八街北小学校については、一般の方は利用できません。
- 祝日は連休、暴風雨等の警報が発表された時は、運行を中止します。わからない時は、図書館ホームページをご覧ください。電話でお問い合わせください。
- 詳しくは図書館 ☎444-4946 まで。(午前9時～午後5時)
ホームページアドレス <https://www.library.yachimata.chiba.jp/>

毎月第1・第3 水曜日	
① 二州小学校	10:00~10:20
② 交進小学校	13:05~13:25
③ 文違コミュニティセンター	13:50~14:10
④ 八街市北部地域包括支援センター	14:30~14:50
⑤ 榎戸第2児童公園付近(泉台)	15:05~15:25
⑥ みどり台第1児童公園	15:40~16:00
毎月第2・第4 水曜日	
⑫ 八街北小学校	9:55~10:15
⑬ 朝陽小学校	13:10~13:30
⑭ 吉倉ガーデンタウン	14:10~14:30
⑮ 上砂やすらぎの家	14:50~15:10
⑯ 南部老人憩いの家	15:30~15:50

毎月第1・第3 木曜日	
⑦ 二州小学校沖分校	10:00~10:20
⑧ 八街市役所	12:40~13:00
⑨ 富山コミュニティセンター	13:20~13:40
⑩ 朝陽幼稚園前	14:00~14:20
⑪ カスミ八街朝日店	15:00~15:50
毎月第2・第4 木曜日	
⑰ 笹引小学校	10:10~10:30
⑱ 川上小学校	12:50~13:10
⑲ ランドローム東吉田店	13:25~14:15
⑳ 希望ヶ丘(コミュニティセンター脇)	14:45~15:05

移動図書館の実施状況

団体名	台数	積載数	駐車場数 (巡回箇所数)	巡回頻度
合併市町				
成田市 匝瑳市 旭市 香取市 いすみ市 南房総市 横芝光町	未実施			
近隣市				
東金市	1台	1,300冊	17	月2回
大網白里市	未実施			
八街市	1台	3,000冊	21	月2回
富里市	未実施			

団体名	台数	積載数	駐車場数 (巡回箇所数)	巡回頻度
その他の県内市				
船橋市	1台	3,000冊	35	月2回
千葉市	1台	3,000冊	26	月2回
習志野市	1台	2,000冊	18	2週1回
市川市	1台	1,200冊	25	月2回(2ヶ所のみ月4回)
松戸市	1台	ブックトラック4台	19	隔週6ヶ所、月1回13ヶ所
我孫子市	1台	3,000冊	16	2週/1stのみ月4回
佐倉市	1台	3,000冊	12	月2回
四街道市	1台	1,600冊	32	2週1回16ヶ所、4週1回16ヶ所
館山市	1台	2,200冊	34	2週1回
君津市	1台	3,000冊	33	2週1回
富津市	1台	2,500冊	15	月2回

出典：千葉県公共図書館協会「千葉県の図書館2024」（令和6年度版）

(3) 電子図書館

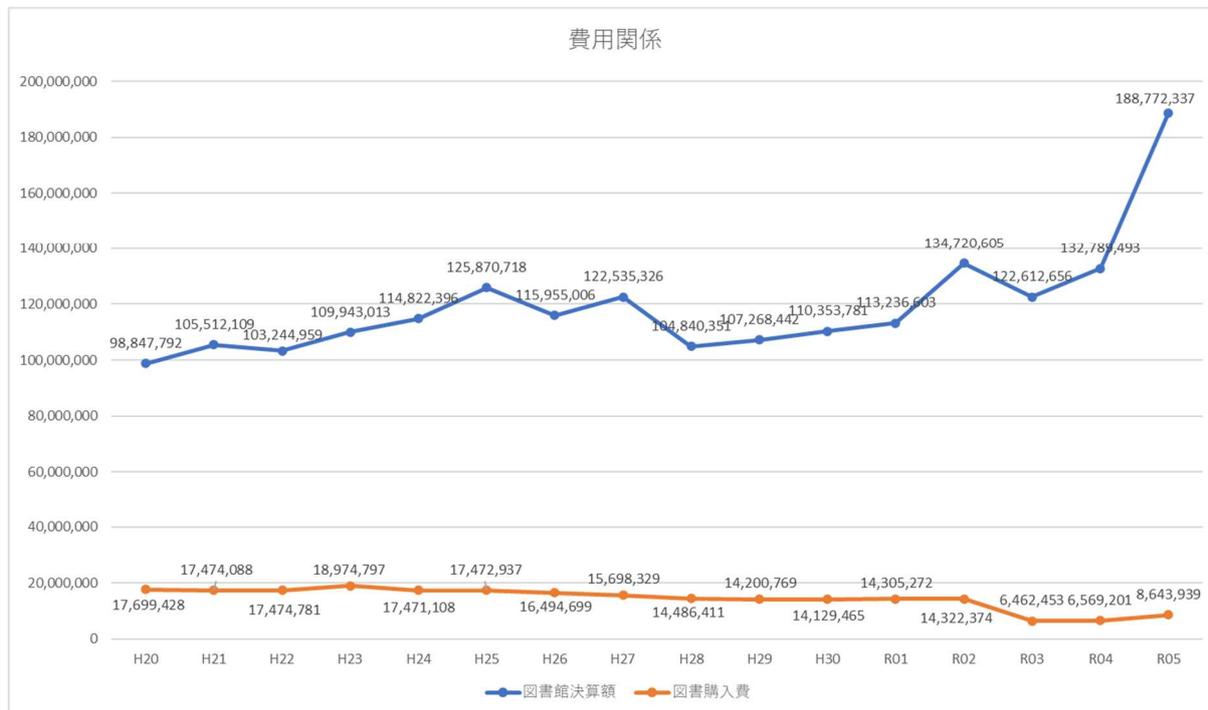
移動手段の問題に対する対応策としてICTの活用は有効であると考えられます。

限られた予算の中で紙媒体の図書と電子図書の両方を充実させることは難しい状況であることから、当初は対象を市内小・中学校に特化し、児童生徒の電子図書のリクエスト本に答えたり、教職員が授業で使用する資史料や副教材として使用する図書等を購入することを検討します。

これにより学校ごとに本をそろえる必要がなくなり、効率的に蔵書の充実を図ることができます。ネット社会に適応した児童生徒がまず電子図書館を学校や家庭で活用し、ニーズが高まれば一般利用者へ拡張することで段階的に電子図書館の充実を図ります。

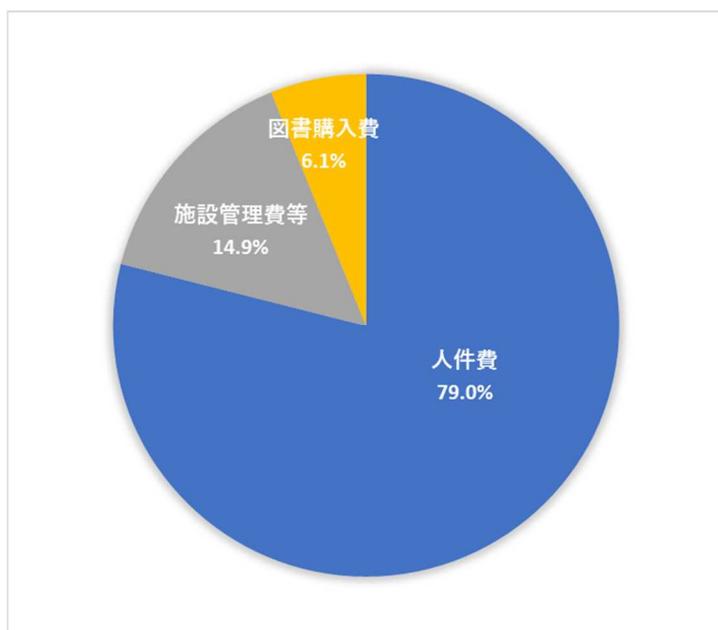
資料編

(1) 費用関係推移



※令和5年度決算額には図書館システム導入費（繰越明許）47,567,850円を含む。

経費内訳（令和5年度）

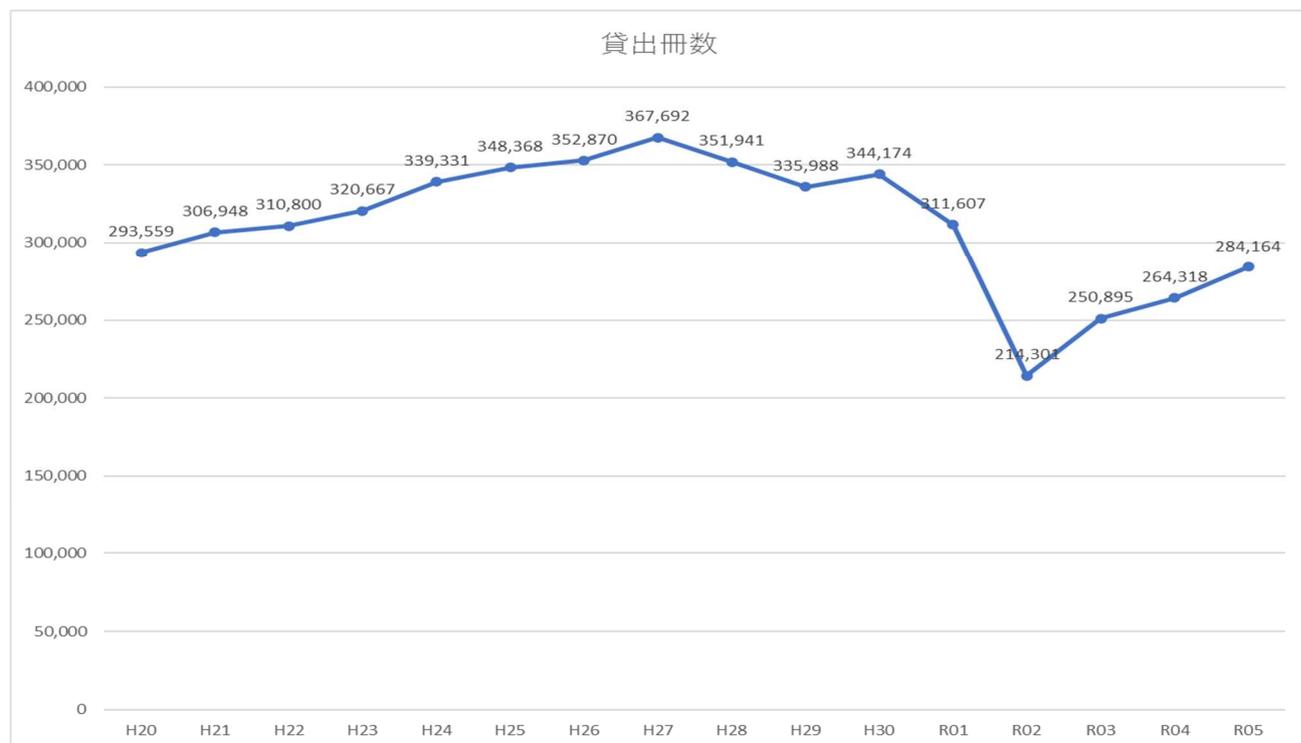


※臨時的経費である図書館システム導入費（繰越明許）47,567,850円を除いた割合。

(2) 来館者数の推移



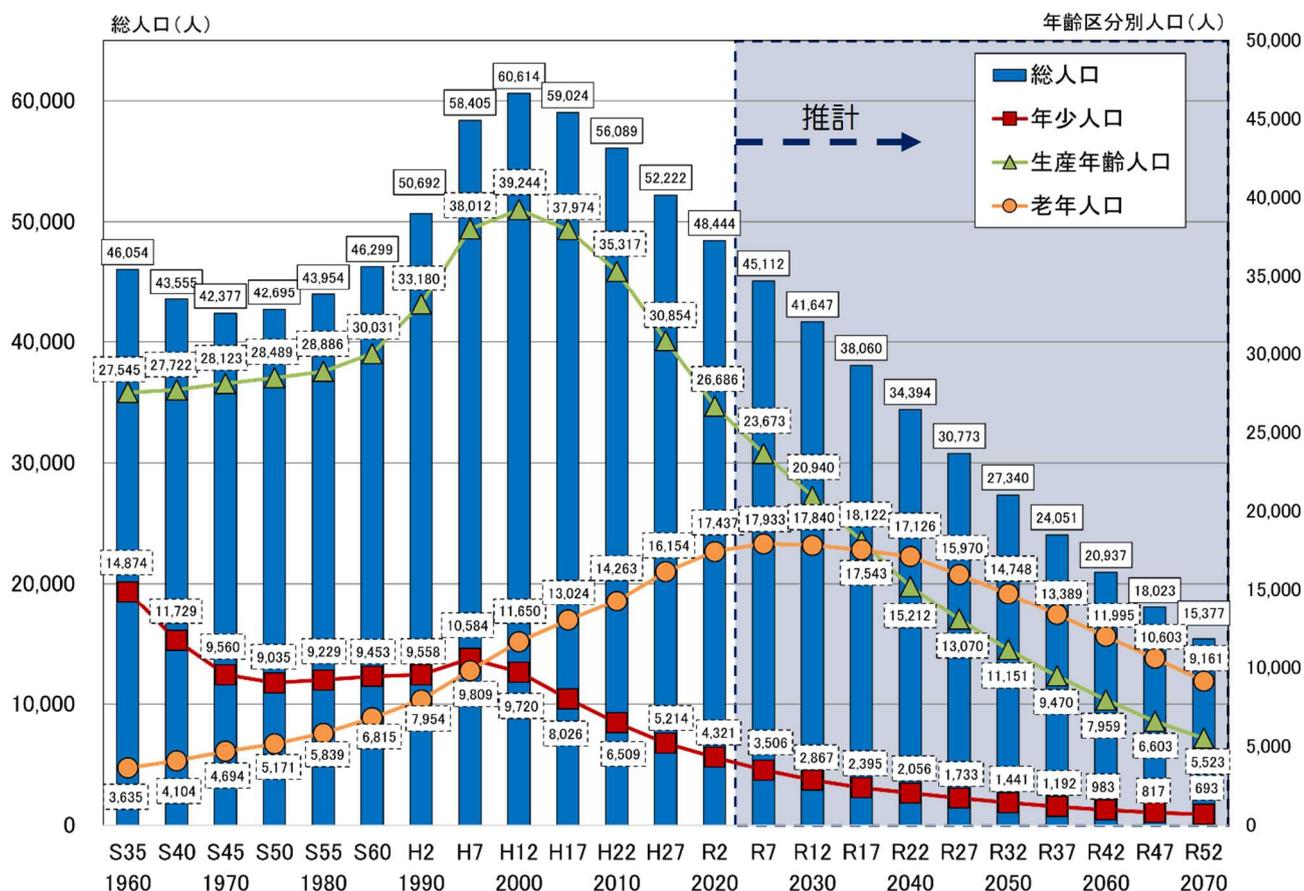
(3) 貸出冊数推移



※学校等の団体利用を含む。

(4) 山武市の人口推計

総人口・年齢区分別人口の推計（市全体）



	S35	S40	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27	R2
	1960年	1965年	1970年	1975年	1980年	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年
年少人口割合	32.3%	26.9%	22.6%	21.2%	21.0%	20.4%	18.9%	18.1%	16.0%	13.6%	11.6%	10.0%	8.9%
生産年齢人口割合	59.8%	63.6%	66.4%	66.7%	65.7%	64.9%	65.5%	65.1%	64.7%	64.3%	63.0%	59.1%	55.1%
老年人口割合	7.9%	9.5%	11.0%	12.1%	13.3%	14.7%	15.6%	16.8%	19.3%	22.1%	25.4%	30.9%	36.0%

年少人口（0歳～14歳）

生産年齢人口（15～64歳）

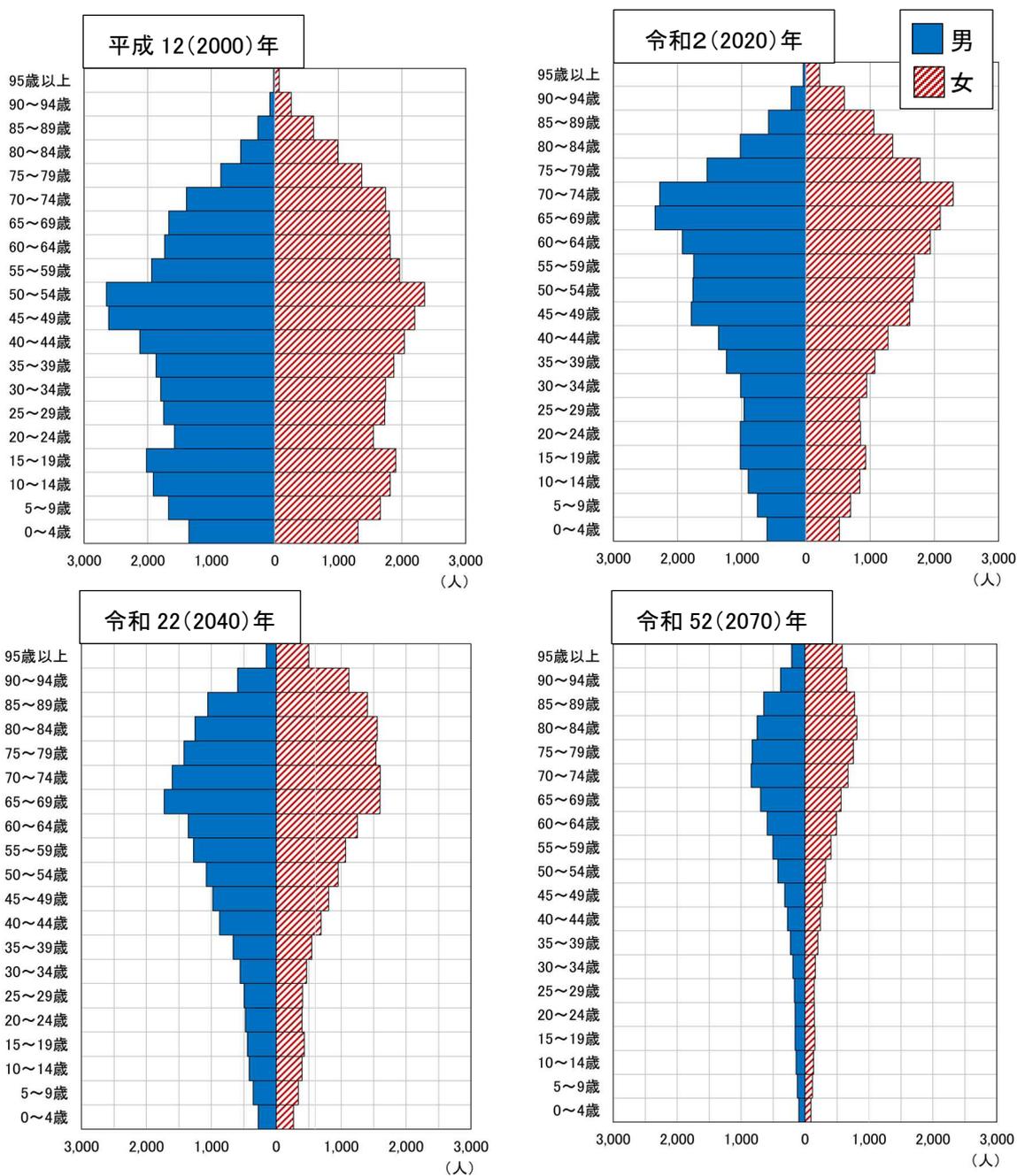
老年人口（65歳以上）

	R7	R12	R17	R22	R27	R32	R37	R42	R47	R52
	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
年少人口割合	7.8%	6.9%	6.3%	6.0%	5.6%	5.3%	5.0%	4.7%	4.5%	4.5%
生産年齢人口割合	52.5%	50.3%	47.6%	44.2%	42.5%	40.8%	39.4%	38.0%	36.6%	35.9%
老年人口割合	39.7%	42.8%	46.1%	49.8%	51.9%	53.9%	55.6%	57.3%	58.9%	59.6%

※出典 『第3期山武市地方創生総合戦略—人口ビジョン—』

(5) 年齢別人口構成

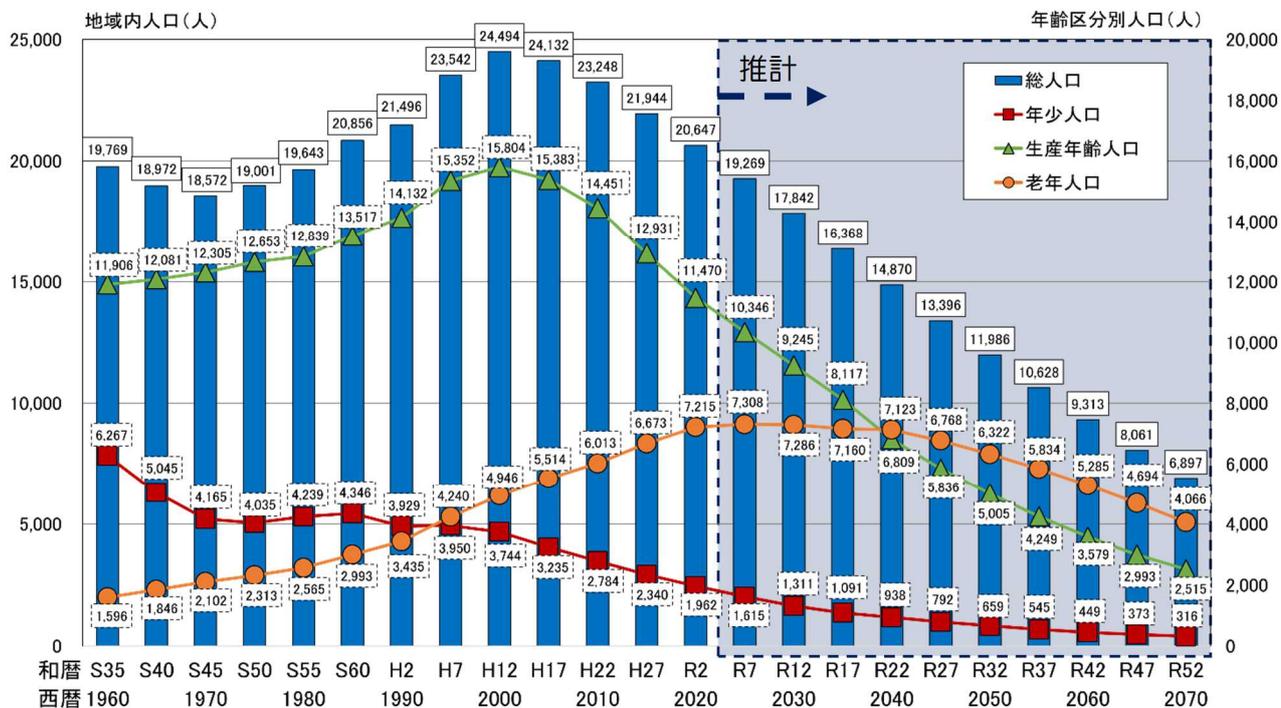
年齢別人口構成



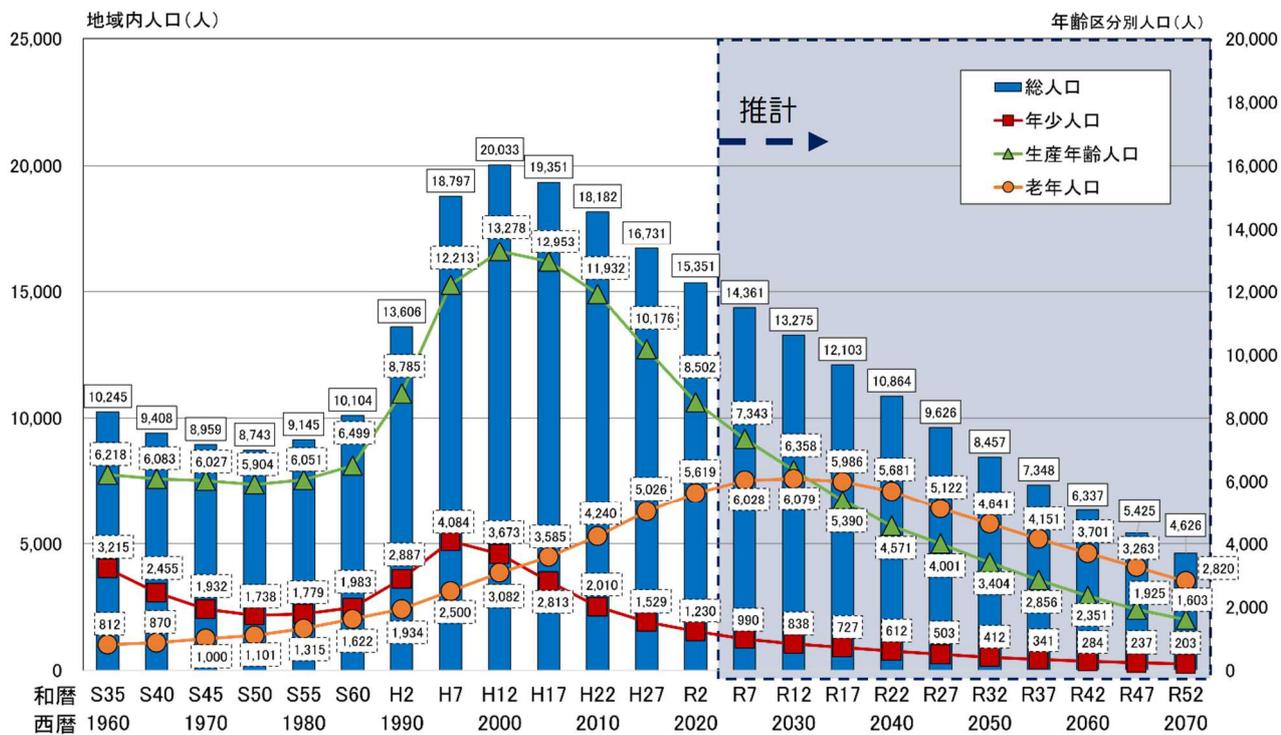
※出典 『第3期山武市地方創生総合戦略—人口ビジョン—』

(6) 地域別人口の推計

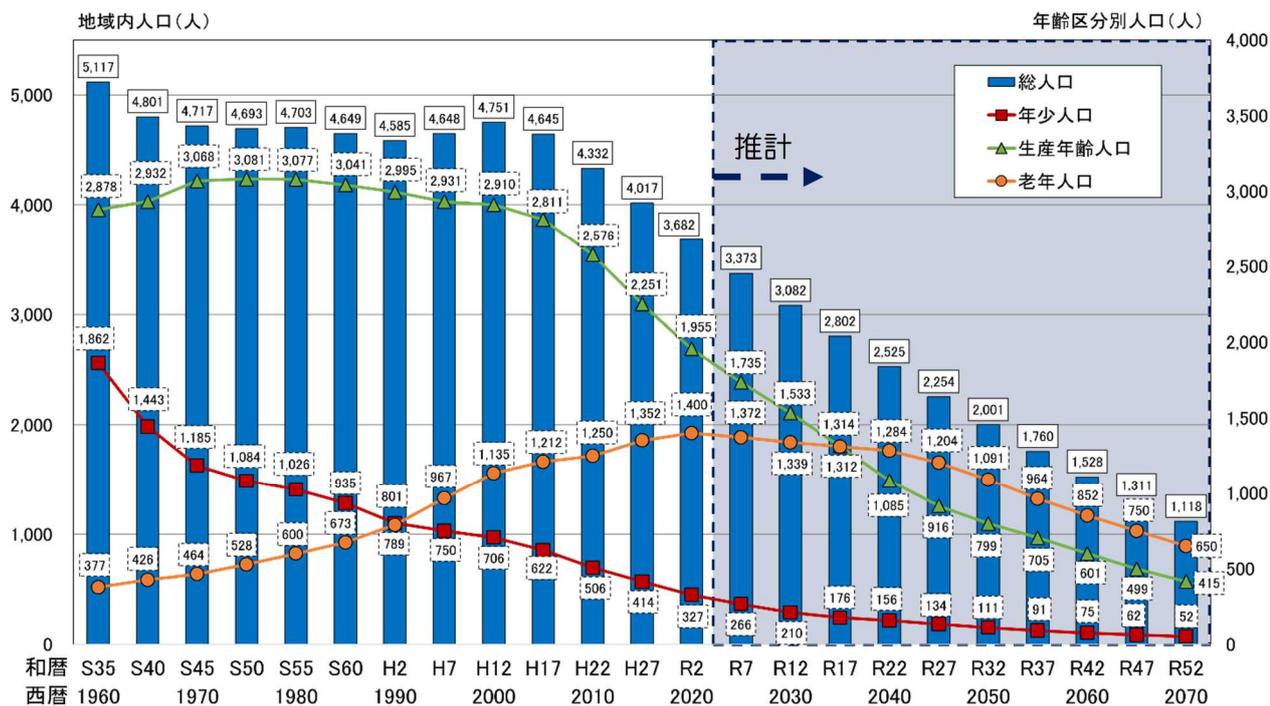
成東地域における人口・年齢区分別人口の推計



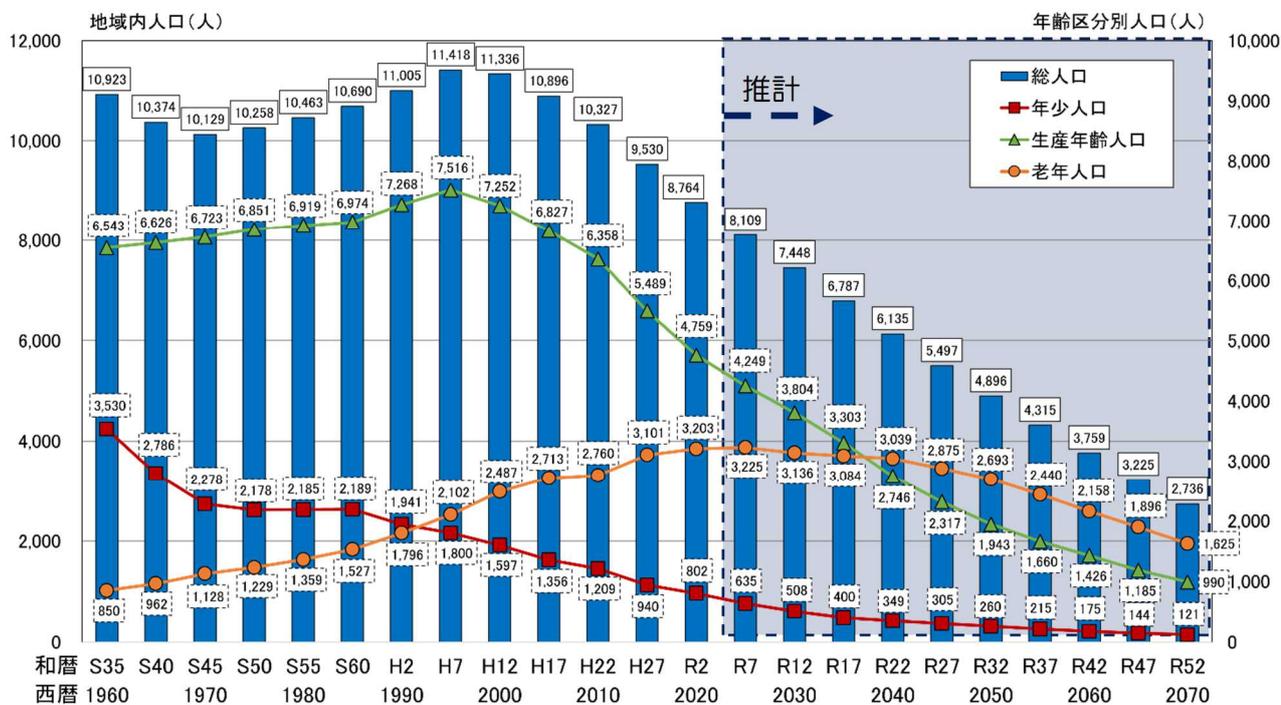
山武地域における人口・年齢区分別人口の推計



蓮沼地域における人口・年齢区分別人口の推計



松尾地域における人口・年齢区分別人口の推計



※出典 『第3期山武市地方創生総合戦略—人口ビジョン—』